

第2学年 保健体育科学習指導案

学 級：2年C・D組男子（C組17名、D組17名、計34名）

指導者：千田 大貴

1 単元名 武道「柔道」（東京書籍 ビジュアル新しい体育実技）

2 単元の目標

- (1) 相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすることができるようにする。 「知識及び技能」
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

(1) 教材観

武道は、武技・武術などから発生した、我が国固有の文化である。伝統的な考え方や行動の仕方が重視される運動で、基本動作と基本となる技を用いて相手の動きに対応した攻防ができるようにすることをねらいとしている。

柔道は、中学校で初めて学習する内容であるため安全を第一に考え、基本動作や基本となる技を確実に身に付けようとするものである。それらを用いて、相手の動きや変化に対応した、自由練習や簡単な試合で攻防を展開し、生徒自身が柔道の攻防に魅力を感じ、身に付けた得意技などが決まった時の達成感や喜びを経験させたい。

(2) 生徒観

生徒は、格闘形式の対人スポーツの特性になかなか触れる機会がほとんどなく、武道については中学校で初めて体験する運動ではあるが、興味や関心については非常に高い。技を覚えたとき・覚えた技を用いて相手を投げたとき・自分の得意技ができたとき・試合で技が決まったときに楽しさを感じ、前向きな姿勢を示す。一方、逆に投げられたときは不安を感じる傾向にある。

本学級の生徒たちは、明るく活発で意欲的に取り組む生徒が多くみられ、活動する顔は生き生きとしている。しかし、なかには運動の苦手な生徒もおり、積極的に取り組めていない者もいる。また、体力面や技術面で劣っている生徒も数名見られる。

(3) 指導観

個人AR（アクションリサーチ）

体力や技能の程度、性別や障害の有無を超えて楽しむ学習のための学習方法の工夫
～ICT等を活用し、個に応じた指導の充実を目指して～

本単元の指導にあたっては、生徒の意欲的な活動を通して、安全面に配慮をするとともに相手を尊重する気持ちや態度を養わせたい。また、技能差を考慮しつつ、体格が同等の生徒同士でペアを組み活動をさせる。お互いが意欲的に教え合いながら学習する態度を身につけさせ、相互批評や賞賛などができるように指導していきたい。

この単元では、1年次においては投げられたときの不安感や恐怖感を取り除くために受け身を中心とした指導を行ってきている。また、基本的な動作や投げ技（体落とし、膝車など）・固め技（けき固め）の指導も行っている。2年次においては、さらに技を発展させていくために連絡技や攻防の中で崩しながら、相手を投げることの有効性も指導をしていきたい。禁じ技に注意をすることを含めて安全性を重視し、相手を尊重しながら練習や試合ができるようにさせていきたい。

4 単元の指導及び評価計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて言ったり書き出したりしている。 知②試合の行い方には、ごく簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 技①取は大腰をかけて投げ、受は受け身をとることができる。 技②取は、「抑え込みの条件」を満たして相手を抑えることができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見つけ、仲間に伝えている。	①相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。

(2) 指導と評価の計画（10時間）

時	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価方法等）
1	オリエンテーション ・柔道の特性や学習の仕方を理解させる。	知①		
2	基本動作と受け身を練習 ・受け身を行う意義について理解し、正しい受け身ができるようにする。	態①	○	観察、学習カード
3	投げ技につながる八方の崩し 抑え技の復習、投げ技の復習① ・崩しの意義を理解し、相手を正確に崩すことができるようにする。	技②	○	観察、学習カード
4	投げ技の復習② ・自己の課題に応じた練習方法を選び動きの中で技ができる楽しさを味わうことができるよう	思②		観察、学習カード、ICT 機器

	にする。			
5	刈り技系の習得① ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようにする。	態②	○	観察、学習カード
6	刈り技系の習得② ・新しい技を習得し、技が決まったときの達成感や喜びを感じてもらえるようにする。	思②	○	観察、学習カード、ICT 機器
7	大腰 ・課題解決に向けて協力して学習することができるようにする。	思①	○	観察、学習カード、ICT 機器
8	適した技の課題解決的な練習 ・既習技を自己の課題に応じた練習を行わせる。	技①	○	観察、学習カード
9	学習した技を利用して相手との攻防を楽しむ ・ごく簡易なし合いにおけるルール、審判及び運営の仕方を理解させる。	知②	○	観察、学習カード、ICT 機器
10	学習した技を利用して相手との攻防を楽しむ ・自由練習やごく簡単な試合で相手との攻防を楽しむ。	思③		観察、学習カード、ICT 機器

5 本時の指導（7時間目／全10時間）

（1）本時の目標

生徒同士で意見を交流し、学習カードや ICT 機器を活用しながら学習課題解決に向けて協力することができる。
「思考・判断・表現」

（2）本時の評価規準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
学習カードや ICT 機器を活用して助言するなど、学習課題解決に向けての言葉がけや練習をしようとしている。	肯定的な声掛けを積極的に行う。ICT 機器で記録している映像で個別の指導を図っていく。

（3）本時の指導構想

本時は、投げ技の「大腰」を教材として扱い、授業を展開していく。大腰の説明の際には、ICT 機器の活用、指導者の助言などを加えながら生徒が技についてイメージしやすいように配慮する。

授業前段では、移動を伴わない立位姿勢の一斉指導にあたる。その後、グループでの学び合い学習を行わせる。グループを形成し、「受」、「取」、「助言者＋撮影」に役割分担し、学習カードを活用しながら生徒同士の中で学びが深まるよう、共感的人間関係の場を設定し展開する。生徒たちの恐怖感を軽減するためのマットなどを準備し、安心して授業に参加できるよう配慮する。

めざす生徒の姿（協議の柱）

学習課題解決に向け ICT 機器を活用し、積極的に意見を出し合いながら仲間と協力し、より良い形に修正している。

(4) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◇評価)
導入 12分	1 挨拶、健康観察 2 準備運動・サーキット 3 基本動作と受け身練習 ・ 2人組の受け身練習	○健康状態を観察し、体調の悪い生徒は無理させないようにする。 ○見学者に関わる指示をする。 ○教科リーダーを中心に活動させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【学習課題】 仲間と協力して、体さばきと崩しを使い大腰をかけよう。 </div>
展開 33分	4 まわし技系 大腰 5 3人組の約束練習 ・ 立位 6 学び合い活動 7 3人組の約束練習	○体さばきと崩し、映像と板書で大腰のポイントを確認させる。 ・ 体さばきは右前回りさばき。 ・ 崩しは右前すみに崩す。 ・ 「受」の後ろ腰に右腕を回し、腰に乗せる。 ・ 引き手の甲を見るように引き上げ、ひじは天井にあげる。 ・ 釣り手は耳の高さまで釣り挙げる。 【一斉指導】 ・ 投げる方向やタイミングをそろえる。 ・ 他の組との間隔を十分にとる。 ・ 必ず引手の方向に技をかけさせる。 ○3人組で「取」「受」「助言者+撮影」の役割を分担し、学習カード、ICT機器を活用しながら自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いたりしながら活動させることで、理解を深めさせる。 ○他者の評価を含めて互いを高められるよう発言やアドバイスを支援する。 ○自分の動きと目指すべき動きの違いを、あらたに発見した部分を整理しながら練習を行う。
終末 5分	8 まとめ・振り返り ・ 振り返りの視点 9 次時の予告 10 健康観察・あいさつ	【学習カード】 ◇思考・判断・表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【期待される生徒の言葉】 より良く大腰ができるように、アドバイスしてくれた生徒等の情報を共有したりしながら、自分では見えないポイントや「つまずき」を解決するための「気づき」が生まれた。 </div>

(5) 板書計画

9/27 柔道		体さばき 崩し
学習課題	仲間と協力して、体さばきと崩しを使い大腰をかけよう。	
柔道アップ表	大腰のポイント解説	振り返りの視点